



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

9月号—No.257

2016.8.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【舂花色(ますはないろ)】灰色がかった淡い青色。

荒事の芸を確立した五世市川團十郎の好んだ色。「舂」は市川家の家紋である「三舂」のことで、「花色」は藍で染めた青色「縹色(はなだいろ)」の別名。團十郎由来の色名には市川家のお家芸である「暫」で用いる柿色の素襖(武家の装束)に因んだ「團十郎茶」がある。

●目次 / contents

今月のニュース.....2

地域創造フェスティバル2016報告

財団からのお知らせ.....4

平成26・27年度「地域における文化・芸術活動を担う人材の育成等に関する調査研究—文化的コモンズが、新時代の地域を創造する—」報告書のご案内 / 平成29年度「公共ホール音楽活性化支援・文化庁連携事業」実施団体募集 / 「市町村長特別セミナー」終了報告

今月の情報.....5

地域通信 / 特集 アートプロジェクト / アーツセンター情報

今月のレポート.....12

熊本県立劇場 ころの復興推進事業「アートキャラバンくまもと」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9F
Tel. 03-5573-4066 Fax. 03-5573-4060
URL: <http://www.jafra.or.jp/>

今年も充実したプログラムで開催

地域創造フェスティバル2016 報告

2016年8月2日～4日



8月2日から4日まで、東京芸術劇場を会場に「地域創造フェスティバル2016」が開催されました。おんかつ支援アーティストとダン活登録アーティストによるプレゼンテーションを中心に、おんかつのフォローアップセミナーやダン活全体研修会などを同時開催。オープニングには今日のテーマを取り上げたシンポジウムで問題提起を行うなど、地域創造の取り組みを広く紹介するとともに、関係者の共通認識づくりとネットワークの場となることを目的としています。また、都道府県・政令市課長会議も併行して開催され、アーティストやコーディネーター、自治体職員、公立ホール職員などが活発な交流を行いました。

●テーマは“文化的commons”の人材育成

共通シンポジウム「『文化的commons』が、新時代の地域を創造する」では、地域創造が実施している最新の調査研究の成果(→P.4参照)がテーマになりました。まず、調査を担当した大澤寅雄さん(ニッセイ基礎研究所)が、最新調査の前提となる平成24・25年度調査(報告書は当財団ウェブサイトからダウンロード可能)について紹介。「東日本大震災をひとつの転換点としてとらえたこの調査では、文化芸術には地域の活力を創出する能力があるが、そのためには地域の共同体の誰もが自由に参加できる入会地のような文化的営みの総体“文化的commons”が必要であり、公立文化施設もその中のひとつとして積極的な役割を担うべきだ」という提言をまとめた」と大澤さん。

それを受けて行われたのが、文化的commonsを担う人材育成などについての平成26・27年度調査です。今回のシンポジウムでは調査委員

会のメンバー4名と事例調査の対象になった八戸市まちづくり文化スポーツ観光部の大澤苑美さん、小美玉市政策調査課の中本正樹さんがパネリストになりました。

委員のひとり、横浜市役所の鬼木和浩さんは、「文化的commonsという言葉は、自治体職員が漠然と感じていたことを言い当ててくれた。市民がサービスの受け手になってしまうとまちづくりが一方通行になってしまう。住んでいる人が自ら住みたい町、いい町にしていきたいと思うのが自治であり、文化的commonsが自治の基盤をつくると考えるようになった。横浜市では指定管理者の要綱に当該文化施設を結節点とした文化的commonsの形成に努めると明記した。どう評価するかは課題はあるが、施設のスタッフが文化的commonsの担い手として堂々と仕事ができる効果はあるのではないかと発言。

また、同じく委員のNPO法人芸術家と子どもたちの堤康彦さんは、「文化的commonsは相当に広い概念であり、教育や福祉の側にはまだ浸透していないと思う。継続することが理解者を増やすには大切だが、文化とそうした現場を繋ぐ仕事は見えにくく、予算も付きにくい。人材が育つためにはそれなりのボリュームで現場があることが重要だと思う」と指摘されていました。

対して調査対象の大澤さんは、「八戸市では、創造的復興をするという市長の方針の下、さまざまな事業が展開されている。その中でアートに興味がある人が掘り起こされ、囑託という立場だが専門職員が増えている。こういう人が実際に地域と繋がるプロジェクトをもつことが重要だと感じている」と発言され、また中本さんは、「合併によって小美玉市には3つのホールが

写真

左：共通シンポジウム「地域における文化・芸術活動を担う人材の育成に関する調査研究～『文化的commons』が、新時代の地域を創造する」

右：田畑真希さんによるダン活プレゼンテーション

●平成26・27年度調査研究「地域における文化・芸術活動を担う人材の育成等に関する調査研究～文化的commonsが、新時代の地域を創造する」

○調査研究委員会委員

大月ヒロ子(有限会社アイデア代表取締役)、鬼木和浩(横浜市文化観光局文化振興課主任調査員)、真田弘彦(りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館事業課長)、篠田信子(富良野メセナ協会代表)、堤康彦(NPO法人芸術家と子どもたち代表)、藤野一夫(神戸大学大学院教授)、吉本光宏(株式会社ニッセイ基礎研究所研究理事)、渡辺弘(公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団事業執行理事)

※五十音順、敬称略(所属・肩書は委員就任当時)

▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

ある。それを負の遺産にせずどう生かすかという観点で、小美玉市まるごと文化ホール計画が生まれた。ホール(小美玉市四季文化館みの〜れ)をまちづくりの実験場にしたいというのが市長の考え方で、今ではいろいろな人が集まって夜な夜なまちづくり会議が開かれている。これが文化的コモンズであり、まちづくりの新たな人材が育ってきていると感じている」と貴重な経験談を披露。評価や環境づくりなど課題は多いものの、文化的コモンズと人材育成の必要性について理解を深めたシンポジウムになりました。

●事例から学ぶ「ダン活のススメ」

ダン活全体研修会の一環として、公開による事例紹介セミナーも開催されました。今回は、山形県酒田市・希望ホールと福岡県中間市・なかまハーモニーホールの担当者がそれぞれの取り組みを紹介しました。

赤丸急上昇とダン活を行った希望ホールは、行政と市民ボランティア(自主事業企画運営委員会)が協働で運営。酒田市教育委員会の小松千佳さんと委員会副委員長の佐藤みどりさんは、コンテンポラリーダンスを受け入れる土壌がないところからスタートし、当初は説明するのにも苦労したと言います。しかし、ワークショップで子どもたちの笑顔を見てから雰囲気の変化。ダン活後に事業の継続に向けて話し合い、「子どもたちの楽しい記憶を増やしたい。楽しいといったら祭りだ。それで小1から74歳まで34人がアーティストと一緒につくったダンスで酒田夏まつりのS-JINKU(アップテンポにした酒田甚句に乗せた創作ダンス)に参加し、大成功した」と小松さん。

また、なかまハーモニーホールでは、担当の三浦康晃さんの発案により、スポーツで有名な地元高校の相撲部とコラボレーション。「相撲の決まり手はダンスにしか見えない」という田畑真希さんが廻し姿の高校生を登場させたダンスをつくりだすなど、興味深い事例紹介が続きました。

●アーティストの多彩なプレゼンテーション

今年も音楽・ダンス合わせて63組ものアーティストがプレゼンテーションを行いました。ダン

活は平成29年度実施館からプログラムが変わり、アウトリーチを行う地域交流プログラム、市民参加作品を創作し上演するプログラム、レパートリー作品を上演するプログラムを選択できるようになりました。プレゼンテーションでは各アーティストの作風がわかるパフォーマンスも披露され、アーティストと出会う貴重な機会になりました。

また、おんかつでは、ベテランがそれぞれの音楽力を発揮し、新しい挑戦を披露するプレゼンテーションが目を引きました。加藤直明さん(トロンボーン)の呼びかけで結成されたTrio“N”はトロンボーン、ピアノ、ヴァイオリンという面白い組み合わせで、まるでミニ・オーケストラのような音色で可能性をアピール。また、作曲家・ピアニストの新垣隆さんと組んで現代音楽への意欲を伝えた海野幹雄さん(チェロ)など、充実したプレゼンテーションが続きました。



おんかつ支援アーティストによるプレゼンテーション。上:ゲストに新垣隆さんを迎えたチェリストの海野幹雄さん/下:加藤直明さん(トロンボーン)、中川賢一さん(ピアノ)、東海千浪さん(ヴァイオリン)によるTrio“N”

地域創造フェスティバル2016 プログラム

1日目(8月2日)
●共通シンポジウム「地域における文化・芸術活動を担う人材の育成に関する調査研究—「文化的コモンズ」が、新時代の地域を創造する—」 [調査報告]大澤寅雄 [モデレーター]吉本光宏 [パネリスト]大澤宛美、鬼木和浩、真田弘彦、篠田信子、堤康彦、中本正樹、田中敦仁
●おんかつフォローアップセミナー① 「オリエンテーション」&「ワークショップ」(基礎コース、発展コース共通) [ファシリテーター]絹川友梨
●ダン活プレゼンテーション 鈴木ユキオ、田畑真希、赤丸急上昇、東野祥子、田村一行、セノグラフィカ
●都道府県・政令市課長会議
●おんかつ支援プレゼンテーション 久保田葉子/三上徹(ピアノ)、北島佳奈/高橋和歌/瀧村依里(ヴァイオリン)、海野幹雄(チェロ)、森岡有裕子(フルート)、神代修(トランペット)、加藤直明(トロンボーン)、渡邊史(ソプラノ)、菅家奈津子(メゾ・ソプラノ)、吉川健一(バリトン)、前田啓太(打楽器)、福島青衣子(ハーブ)、片岡リサ(箏)、益田正洋/松尾俊介(クラシック・ギター)、江崎浩司(リコーダー)、Dual KOTO×KOTO(箏デュオ)、Quatuor B(サクソフォン四重奏)、Buzz Five(金管五重奏)
2日目(8月3日)
●おんかつフォローアップセミナー② 「グループワークによる企画検討」 [ファシリテーター]山本若子/小澤櫻作(基礎コース)、花田和加子/丹羽徹(発展コース)
●ダン活セミナー「ダン活のススメ」 [講師(ダン活実施ホール)]小松千佳・佐藤みどり(酒田市民会館希望ホール)、三浦康晃(なかまハーモニーホール) [ダン活コーディネーター]佐東範一、花光潤子
●おんかつオープンセミナー「地域アーティストと共に創る地域の未来」 [モデレーター]小澤櫻作 [パネリスト]田村緑、花田和加子、榎本広樹、田上朋子 [コメンテーター]児玉真
●おんかつ支援プレゼンテーション 新居由佳梨/今野尚美/佐々木京子/白石光隆/田村緑/中川賢一(ピアノ)、磯絵里子/大森潤子/小野明子/早稲田桜子(ヴァイオリン)、奥田なな子(チェロ)、岩佐和弘/岩間丈正(フルート)、藤田向(ファゴット)、田村真寛(サクソフォン)、高見信行(トランペット)、乗松恵美(ソプラノ)、黒田晋也/中井亮一(テノール)、浜まゆみ(マリンバ)、野尻小矢佳(パーカッション&ボイス)、デュエットウ かなえ&ゆかり(ピアノデュオ)、Quartet SPIRITUS(サクソフォン四重奏)、BLACK BOTTOM BRASS BAND(ブラスバンド)
●情報交換会
3日目(8月4日)
●おんかつフォローアップセミナー③ 「グループワークによる企画検討+発表」
●地域創造助成要綱説明会
●おんかつ支援プレゼンテーション 新崎誠実/泊真美子(ピアノ)、松本蘭(ヴァイオリン)、荒川洋/吉岡次郎(フルート)、大石将紀(サクソフォン)、沢崎恵美/廣田美穂(ソプラノ)、大熊理津子(マリンバ)、Duo Yamaguchi(ピアノ&チェロ)、デュオ・レゾネ(クラリネット&ピアノ)、Quintet H(木管五重奏)

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●平成26・27年度「地域における文化・芸術活動を担う人材の育成等に関する調査研究—文化的コモンズが、新時代の地域を創造する—」報告書のご案内

この調査研究は、公立文化施設において、また地域の文化・芸術活動において求められる人材の職能や資質、その育成・確保方策等についてあるべき姿や方向性を検討することを目的として企画されたものです。

2カ年にわたり、調査研究委員会での検討、既存の関連調査や提言のレビュー、そして全国5か所の関係施設等での現地調査、地域の文化的コモンズの形成に特に重要な役割を果たすことが考えられるプロデューサー、制作者、コーディネーターなどを対象にグループインタビューを実施し、その結果を整理して報告書にとりまとめました。

報告書は当財団ウェブサイトからも閲覧・ダウンロードが可能です。

<http://www.jafra.or.jp/j/library/investigation/new/index.php>

●平成29年度「公共ホール音楽活性化支援・文化庁連携事業」実施団体募集

文化庁の「文化芸術による子供の育成事業（芸術家の派遣事業）」と連携し、「芸術家派遣事業に対する支援活動」および「公演事業」に対して助成を実施します。おんかつ支援事業のノウハウを生かした効果的なアウトリーチ事業を広げるとともに、公共ホールの活性化を目的とし、5カ年継続のプログラムを自主的に行う市町村等に対して財政的な支援を行います。

募集締切：9月5日(月)必着

◎対象団体

これまでにおんかつ支援事業を実施した市町村等

◎対象アーティスト

公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティスト

◎支援内容

以下の①及び②に係る経費の支援1年目：8/10、2年目：2/3、3年目：1/2、4・5年目：1/3を地域創造が助成します。

①「公演事業」に係る経費：出演料及びマネジメント料(上限あり)、交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、楽器運搬費(現地運搬費を除く)、損害保険料

②「芸術家派遣事業」に係る経費：ピアノ調律料のみ

※助成上限額等の詳細については、要綱をご確認ください

●「市町村長特別セミナー」終了報告～全国の市町村長等20名が参加

地域創造では、全国の市町村長等を対象に、文化・芸術による地域づくりへの理解を深めて頂くための「市町村長特別セミナー」を年2回実施しています。今年度の2回目は滋賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所との共催により、芸術文化に関する講演と音楽アウトリーチを身近に経験して頂くミニコンサートを実施しました。

今回の講師は、元滋賀県立びわ湖ホール館長で地域創造理事の上原恵美さんです。滋賀県で文化行政を担当していた経験も交えて、「芸術文化は社会の基盤～文化は人をつくる、人は地域をつくる」をテーマに講演。自治体文化行政の歩みから、文化施設が“ハコモノ”から脱却し、地域の中で今後どのように生きていくのかという課題を話した上で、芸術の力を地域づくりに活用しているフランスのナント市や越後妻有アートトリエンナーレなどの事例を、地方創生のひとつの視点として紹介しました。

ミニコンサートに登場したのは、平成26年度邦楽地域活性化事業(富山県実施)へ派遣された生田流箏曲演奏家の花岡操聖さん、喜羽美帆さん、内藤美和さんです。約400年前につくられた

曲から現代的な曲まで、一般的な箏よりも絃の数が倍近く多い「二十五絃箏」などを駆使しながら、邦楽の奥深さと広がりを感じられるプログラムを展開。併せて、富山県高岡市内の小学校で行った邦楽アウトリーチの様子も動画で紹介しました。参加した市町村長等からは「迫力ある箏の音色に驚いた」「演奏家が直接子どもたちにメッセージを発信することが大切であり、このような事業を自分の自治体でも取り入れていきたい」などの声が挙がっていました。



邦楽ミニコンサートの様子

●調査研究報告書に関する問い合わせ
芸術環境部 上木
Tel. 03-5573-4068

●「公共ホール音楽活性化支援・文化庁連携事業」に関する問い合わせ
芸術環境部 清宮
Tel. 03-5573-4078
onkatsu@jafra.or.jp

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

● データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

● 地域ブロック

[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

● 情報提供先

ファックス、電話、e-mailをお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 宇野・小川

● 2016年11月号情報締切

10月3日(月)

● 2016年11月号掲載対象情報

2016年11月～17年1月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

- ◎ 公共ホール等の求人情報
- ◎ 公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.jafra.or.jp/>

北海道・東北

● 岩手県ほか

NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク
〒600-8092 京都市下京区神明町241オパス四条503
Tel. 075-361-4685 佐東範一
<http://sanfes.com/>

三陸国際芸術祭2016

2014年に始まった文化芸術による復興と新たな文化芸術の創出を目的とした伝統芸能の国際芸術祭。宮城から青森までの三陸沿岸地域を拠点として今年には八戸市も参加。インドネシア・パプアから2団体、フィリピン・マニラの芸術学校で伝統芸能を受け継ぐ高校生、中国・香港からは日本の芸能と類似点をもつ獅子舞を招く。毎年好評の子どもから大人まで参加可能なコミュニティダンスを今年も開催し、アジアと三陸の食材を使用した「パプア食堂」も併せて出店する。

[日程] 7月23日～10月23日

[会場] 気仙沼市内、八戸市内、大船渡市内、東京・六本木ほか

● 岩手県盛岡市

岩手県立美術館
〒020-0866 盛岡市本宮字松幅12-3
Tel. 019-658-1711 根本亮子
<https://www.ima.or.jp/>

2016年のIMA

— 岩手の現代美術家たち —

学芸員が選んだ岩手ゆかりの現代美術家7名の作品により、岩手の「いま」を伝える展覧会。タイトルにある「IMA」は、この美術館の英語表記の略でもある。5年前に東日本大震災発生によって予定企画展が中止となり、作家たちの協力の下、急遽企画した2つの展覧会にも「IMA(いま)」という言葉が使われた。本展は、その後継企画という位置づけでもある。

[日程] 9月3日～10月16日

[会場] 岩手県立美術館



尾崎森平《林檎の木》(2013～14年)

● 秋田県横手市

秋田県立近代美術館
〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ沢62-46
Tel. 0182-33-8855 奈良香
http://www.pref.akita.jp/gakusyu/public_html/

橘小夢とその時代

— 幻の画家、ふるさとに咲く —

大正から昭和初期にかけ、妖艶耽美で幻想的な女性などを描いた橘小夢(1892～1970)。出生から中学卒業までを過ごした秋田で開催される初めての大回顧展として、大型の屏風や軸など秋田県内に残る肉筆画をはじめ、約180点の作品や資料を展示。近年、評価が高まるなかその画業を改めて振り返る。併せて、竹久夢二など同時代に活躍した挿絵画家たちの優品も紹介。

[日程] 9月17日～11月27日

[会場] 秋田県立近代美術館

関東

● 群馬県前橋市

アーツ前橋
〒371-0022 前橋市千代田町5-1-16
Tel. 027-230-1144 今井朋
<https://www.artismaebashi.jp/>

表現の森 協働としてのアート

アートのもつ創造力によって地域と繋がることを目指すアーツ前橋では、市内の福祉施設や団体と協働しながら5つのアートプロジェクトを実施している。これらのプロジェクトと、釜ヶ崎芸

術大学(大阪市西成区)、たんぼぼの家(奈良市)、Art for Peaceの先進的な取り組みを、インスタレーションや参加型展示など多様な手法で紹介し、アートが福祉や教育、医療の現場に入っていくことの意義と可能性を探る。
[日程] 7月22日～9月25日
[会場] アーツ前橋

● 千葉県船橋市

船橋市民文化ホール
〒273-0005 船橋市本町1-3-1 (市民文化創造館)
Tel. 047-423-7261 足立篤史
<http://www.city.funabashi.lg.jp/shisetsu/bunka/0001/0001/0003/p035499.html>

アンデルセンプロジェクト2016 “小さい者たちの歌・あふれる物語”～第二章「絵のない絵本」 「人魚姫」ほかより～

「市民と共に発見し創造する総合的な舞台芸術」をテーマに、2015年から3カ年計画で始まった市民参加による舞台「アンデルセンプロジェクト」の第2弾となる音楽劇。昨年は『雪の女王』を主題とした朗読劇を行い、2年目となる今年には『絵のない絵本』の構成によりオリジナル楽曲と群読による詩劇を上演する。

[日程] 9月18日

[会場] 船橋市民文化ホール



昨年の公演(朗読劇「ハンスと旅のゆくえ～第一章・雪の女王より～」)

● 千葉県市川市

いちかわ市民ミュージカル実行委員会
〒272-0824 市川市菅野1-1-23 (スペースniwa-niwa内)

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

の再創作や、福井にゆかりのある浦上雄次×縫原弘子×アサイショウイチによる初のコラボレーション公演など、演劇・ダンスから人形劇・紙芝居まで、さまざまな作品をラインナップ。全国で活動する一流アーティストの作品に出合える3日間。

[日程] 8月26日～28日
[会場] 福井市文化会館



紙芝居劇むすび『文ちゃんの冥土めぐり』

●福井県越前市

武生国際音楽祭推進会議事務局
〒915-0832 越前市高瀬2-3-3
(越前市文化センター内)
Tel. 0778-23-5057 森由華
<http://www.takefu-imf.com/>

武生国際音楽祭2016

市民ボランティアによる推進会議が核となって企画・運営している伝統の音楽祭。27回目の今年は細川俊夫音楽監督の下、「シューベルトからコンテンポラリーへ!」をテーマに、ディオティマ弦楽四重奏団(フランス)やピアニストの伊藤恵プロデュースによる室内楽コンサートなど幅広いプログラムで連日行われるメインコンサートのほか、店舗や社寺などまちなかでのコンサートや世界的な演奏家によるアカデミーなども開催される。

[日程] 9月4日～11日



昨年のコンサート

[会場] 越前市文化センターほか

●長野県松本市

松本市美術館
〒390-0811 松本市中央4-2-22
Tel. 0263-39-7400
<http://matsumoto-artmuse.jp/>

飯沼英樹 闘う女神たち

国内外で活躍を続ける松本市出身の彫刻家・飯沼英樹の全貌を初めて紹介する展覧会。現在を生きる飯沼が刻むのは、現在を生きる女性の姿。煌びやかな衣装を身に纏い、最先端のメイクで武装したモデルたちの、一瞬の輝きに宿る神性を具現化したかのような木彫作品から、新作を含む約120点を展示する。

[日程] 9月17日～11月27日

[会場] 松本市美術館

●浜松市

浜松市美術館
〒430-0947 浜松市中区松城町100-1
Tel. 053-454-6801 生熊周
<http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/artmuse/>

若木信吾写真展

～Come and Go～

浜松出身のフォトグラファー・若木信吾(1971～)の初の大規模な個展を、デビュー20周年および平成26年度浜松市教育文化奨励賞受賞を機に開催。ポートレートを中心とした写真家としての活動のほか、映画監督や出版、書店経営などにも取り組み、写真家のあり方を刷新してきた多面的な魅力を紹介する。会期中はトークや写真講座、映画上映などの関連事業を数多く実施する。

[日程] 9月10日～10月7日

[会場] 浜松市美術館

●浜松市

浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1

Tel. 053-451-1128 嶋和彦
<http://www.gakkihaku.jp/>

一絃の琴・二絃の琴～現在に伝わる和の響き～

江戸時代より伝承する一絃琴と二絃琴は神道の祭具として、また高僧や武士、貴族の嗜みとして受け継がれてきた。戦後は演奏者の減少などにより継承が危惧されてきたが、名古屋芸術大学と同館が2012年から共同で調査を行い、生き生きと伝承される姿を記録した。本展では調査の映像と写真、また飛鳥寺、須磨寺をはじめとする各保存会より特別出品された貴重な楽器と資料を展示する。

[日程] 9月11日～10月11日

[会場] 浜松市楽器博物館

近畿

●大阪市

おおさか創造千島財団
〒559-0011 大阪市住之江区北加賀屋5-4-48
Tel. 06-6681-6170 緒方江美
<http://www.chishimatochi.info/>

Open Storage 2016

広さ約1,000平方メートル・高さ9メートルの鋼材加工工場・倉庫跡地を活用した「MASK(MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA)」で保管する大型現代アート作品を入場無料で一般公開する美術展。3年目となる今年は市内の造船所跡地で、メインアーティスト・やなぎみわによるMASK収蔵作品であるステージトレーラーを使用した野外演劇『日輪の翼』が上演される。



Open Storage2015 対話型作品鑑賞ツアー(右に見えるのがやなぎみわによるステージトレーラー) 撮影:早川智彬

[日程] 9月2日～19日

[会場] MASK(MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA)ほか

●大阪市

大阪クラシック実行委員会
〒553-0005 大阪市福島区野田1-1-86 大阪市中央卸売市場本場業務管理棟8F(大阪市経済戦略局文化部文化課内)
Tel. 06-6469-5173 宮上真弓
<http://www.osaka-classic.com/>

大阪クラシック2016

今年で11回目を迎えるクラシック音楽の祭典。フェスティバルプロデューサーは指揮者の大植英次。大阪フィルハーモニー交響楽団や大阪交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団など大阪の5つのプロオーケストラが出演。中之島界隈のオフィスビルやカフェなど、普段演奏会に出掛けられない人も気軽に音楽を楽しめるように、メインストリートである御堂筋を中心としたさまざまな場所にて、1週間で81公演が開催される。

[日程] 9月11日～17日

[会場] 大阪市中央公会堂、大阪市役所、フェスティバルホール、ザ・フェニックスホール ほか



昨年の様子(新ダイビル) 撮影:飯島隆

●大阪府河内長野市

河内長野市文化振興財団
〒586-0016 河内長野市西代町12-46
Tel. 0721-56-6100 山田愉香
<http://www.lovelyhall.com/>

かわちながの世界民族音楽祭2016～奥河内音絵巻 幻のまつり～

1994年に始まり、世界のさまざまな民族音楽を紹介してきた音楽祭。2015年からは河内長野市在住のサキタハチメ(作曲家・のこぎり演奏家)を芸術監督に迎え、奥河内からワールドミュージックを発信している。奥河内の木を使ったオリジナル楽器によるコンサートやワークショップなども開催し、メインステージはかんなくずから生まれた「かんなのはな」が咲き誇る舞台上、音楽と踊りによる「幻のまつり」をつくり上げる。

[日程]9月11日

[会場]ラプリーホール(河内長野市立文化会館)



昨年のコンサート

●神戸市

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 神戸市灘区原田通3-8-305

Tel. 078-855-5607 平林恵

<http://www.ytmoca.jp/>

ヨコオ・マニアリスム vol.1

完成された横尾忠則の作品のみを展示するのではなく、作品のモチーフとなった写真や印刷物、制作過程のアイデアスケッチなど、完成に至るまでの資料を主役に、そこから出来上がってくる作品を見つめていく。また、アーカイブルームの機能を展示室内に持ち込み、インターンの学生らとともに資料整理に取り組む様子も公開。

[日程]8月6日~11月27日

[会場]横尾忠則現代美術館

●奈良県斑鳩町

斑鳩町文化振興財団

〒636-0123 生駒郡斑鳩町興留10-6-43

Tel. 0745-75-7743 青木俊裕

<http://www.town.ikaruga.nara.jp/ikaho/>

第10回斑鳩雅楽フェスティバル ~雅楽幽遠の奏~

楽舞を奨励した聖徳太子にちなみ、太子ゆかりの地に雅楽の音色を響かせるため、毎年開催しているフェスティバル。今年も雅楽講座の受講生を中心に結成された斑鳩雅楽会や国内外で公演している天理大雅楽部などが出演し、第1部で管絃、第2部で「二つの催馬楽」をテーマとした解説講演、第3部で舞楽を披露する。

[日程]9月18日

[会場]いかるがホール

中国・四国

●鳥取県鳥取市ほか

第23回BeSeTo演劇祭実行委員会

〒689-0405 鳥取市鹿野町鹿野1812-1(鳥の劇場内)

Tel. 0857-84-3268 辻口実里

<http://www.birdtheatre.org/beseto23rd/>

第23回BeSeTo演劇祭 鳥取

中国・韓国・日本が共同し、3カ国持ち回りにより開催する国際演劇祭。「BeSeTo」とは、Beijing(北京)、Seoul(ソウル)、Tottori(鳥取)の頭文字。これまで「To」であった東京での開催の歴史とノウハウを継承しつつ、文化の東京集中からの脱却を目指し、今回は鳥取県を中心に開催。3カ国の演劇作品の上演やシンポジウムを通して、東アジアの文化交流の機会とする。

[日程]9月14日~10月10日

[会場]鳥の劇場ほか

●岡山市

岡山県立美術館

〒700-0814 岡山市北区天神町8-48

Tel. 086-225-4800 中村麻里子

<http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/kenbi/>

浦上玉堂と春琴・秋琴 父子の芸術

日本文人画壇の巨星・浦上玉堂は、現在岡山県立美術館が建つ地に生まれ、50歳で長男・春琴、次男・秋琴を連れ脱藩した。父子はそれぞれに異なる活動に勤むが、みな文人としての誇りを高く保ち続け生涯を送った。玉堂父子の全国にまたがる足跡を追いつつ、重要文化財8件を含む約250点の作品群を、前期・後期に分けひとつの会場で一覧可能とした大規模展覧会。

[日程]9月23日~10月30日

[会場]岡山県立美術館

●岡山市

夢二郷土美術館

〒703-8256 岡山市中区浜2-1-32

Tel. 086-271-1000 小嶋ひろみ

<http://yumeji-art-museum.com/>

創設50周年記念 初公開 幻の 夢二の油彩画《西海岸の裸婦》 アメリカから里帰り

裸婦を描くことが稀であった竹久夢二が渡米中に描いた油彩画《西海岸の裸婦》を新収蔵作品として初公開する。この画を所蔵していた写真家・宮武東洋が撮影した夢二の肖像写真など渡米中の夢二の様子を紹介するとともに、日本画29点と初期から渡米中までの油彩画12点などを展示。

[日程]7月5日~10月16日

[会場]夢二郷土美術館 本館

●広島県熊野町

筆の里振興事業団

〒731-4293 安芸郡熊野町中溝5-17-1

Tel. 082-855-3010 河岡明日香

<http://fude.or.jp/>

SUMIの輝き一黒の表現者たち

日本画に欠かせない画材のひとつである墨を扱い、さまざまな表現の可能性を追求する作家の作品を通して、日本画の新たな世界と、墨のもつ現代の輝きを探る。琳派を彷彿とさせる連続性を作品に取り入れ、現代的な水墨の世界も描いた重鎮加山又造をはじめ、さまざまな手段で墨色を表現し、独自の画面をつくり上げている5名の作家の作品が出品される。

[日程]9月3日~10月30日

[会場]筆の里工房

●山口県萩市

山口県立萩美術館・浦上記念館

〒758-0074 萩市平安古町586-1

Tel. 0838-24-2400 市来・淵田

<http://www.hum.pref.yamaguchi.lg.jp/>

やきものでわくわく 浮世絵に うきうき 開館20周年記念特別 企画展 I「東洋陶磁と浮世絵— 館蔵名品選」

東洋陶磁や浮世絵版画を中心とするコレクションを有し、今年で開館20周年を迎える山口県立萩美術館・浦上記念館の特別企画展。「赤富士」と呼ばれる葛飾北斎の《富嶽三十六景 凱風快晴》など選りすぐりの作品による構成で、やきものと浮世絵の新たな魅力を紹介し、ギャラリートゥアーなど関連イベントも多く開催される。

[日程]9月10日~10月16日

[会場]山口県立萩美術館・浦上記念館

●香川県丸亀市

丸亀市福祉事業団

〒763-0034 丸亀市大手町2-4-20(丸亀市民会館内)

Tel. 0877-23-4141 篠原勉

<http://www.marugame-hall.org/>

ミュージカル『お遍路さんどうぞ』

愛媛県東温市の坊っちゃん劇場10周年を記念し1月に初演されたミュージカルの四国巡

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

回公演。四国遍路を題材に、坊っちゃん劇場名誉館長であるジェームス三木が脚本・歌詞・演出を手がけた作品。「生まれてきたのは何のため、生きているのは何のため」をテーマに、若者たちと亡霊たちの物語をユーモラスに描く。丸亀市のほか、高松市、鳴門市、高知市で上演。

[日程] 9月17日

[会場] 丸亀市民会館



『お遍路さんどうぞ』

●愛媛県今治市

今治市伊東豊雄建築ミュージアム
〒794-1308 今治市大三島町浦戸2418

Tel. 0897-74-7220 山田安紀
<http://www.tima-imabari.jp/>

日本一美しい島・大三島をつくらうプロジェクト2016

2011年に開館した日本初の建築ミュージアムで、12年から伊東建築塾が中心となり取り組んでいる、大三島と周辺の島嶼部のまちづくりプロジェクトを紹介するとともに、島の景色や人々の営みを伝える写真を展示する。中心部にある大山祇神社参道に賑わいを取り戻すプロジェクトや島のトランスポーターの解決案など、プロジェクトの進捗状況から今後のビジョンを発信する。

[日程] 7月3日～2017年6月15日

[会場] 今治市伊東豊雄建築ミュージアム

九州・沖縄

●福岡県大野城市

大野城まどかぴあ

〒816-0934 大野城市曙町2-3-1

Tel. 092-586-4000 小磯上

<http://www.madokapia.or.jp/>

まどかぴあ舞台創造プログラム プロデュース公演『浮足町アンダーグラウンド』

開館20周年記念事業として制作される演劇公演。中島かずき(劇団☆新感線 座付作家)の書き下ろし作品を、内藤裕敬(南河内万歳一座)が演出。出演は大野城市出身の俳優・池田成志と、公募によって選ばれた九州の演劇人14名。大野城で3回上演された後、九州ツアーとして熊本県八代市や宮崎市でも上演される。

[日程] 9月10日、11日

[会場] 大野城まどかぴあ

●福岡県宗像市

宗像ユリックス

〒811-3437 宗像市久原400

Tel. 0940-37-1311 猪俣司郎

<http://yurix.munakata.com/>

宗像ミアーレ音楽祭2016 ～響きわたれ!おんがくの風～

ジャンルにこだわらない多種多様な要素を取り込み、28ヘクタールの広大な施設各所が音楽で溢れる2日間。今年は恒例の九州交響楽団コンサートや宗像市民による吹奏楽の合同ステージ「ミアーレ吹奏楽団300人コンサート」に加え、雅楽グループ「東京楽所」による公演も開催される。ほかにもジュニア合唱団の公演や音楽愛好家による「市民ステージ」など、さまざまなコンサートが開催される。

[日程] 9月24日、25日

[会場] 宗像ユリックス



昨年の「ミアーレ吹奏楽団300人コンサート」

●福岡県直方市

直方谷尾美術館

〒822-0017 直方市殿町10-35

Tel. 0949-22-0038 中込潤

<http://yumenity.jp/tanio/>

街は大きな図書館

—手触りのある日々—

直方谷尾美術館から商店街を通して直方市立図書館を結ぶエリアをひとつの大きな図書館に見立てた展覧会。“手触り”をテーマに、現代社会において改めてモノに直に触れること、人と対話することの重要性を共通点として、商店街と同市立図書館と連携。商店街ではしおりの提示で割引やプレゼントの特典があり、美術館では本にまつわる作品展示のほか、彫刻作品に暗闇で触れる企画などが楽しめる。

[日程] 7月1日～9月19日

[会場] 直方谷尾美術館、直方市立図書館、商店街

●熊本市

熊本県立美術館

〒860-0008 熊本市中央区二の丸2

Tel. 096-352-2111 金子岳史

<http://www.museum.pref.kumamoto.jp/>

雪舟流と狩野派—細川家を魅了した日本絵画の至宝—

開館40周年を記念して開催される展覧会。細川家が築き上げた御用絵師による絵画文化を紹介し、さらにその元となった雪舟流と狩野派という2つの画流について、室町・桃山時代まで遡ってその展開をたどる。細川家や熊本にゆかりのある名品も全国から集い、多数展示される。

[日程] 8月30日～10月10日

[会場] 熊本県立美術館

●大分県豊後大野市

エイトピアおおの

〒879-7125 豊後大野市三重

町内田878

Tel. 0974-22-8000 狹間史代

<http://www.bungoohno-bunka.jp/>

アルテヴィーヴァコンサート in 豊後大野 SPERANZA ～希望～

毎年夏に開催されている市民参加型のオペラコンサート。国内外で活躍している大分県ゆかりの声楽家たちが、公募によって集まった中学生から70歳代までの地域の人たち約30人と一緒にオペラをつくり上げる。今年の演目はヴェルディ作曲の歌劇『椿姫』。声楽家と市民とが約10日間稽古を重ね、公演に臨む。

[日程] 8月28日

[会場] エイトピアおおの(豊後大野市総合文化センター)

●宮崎県宮崎市

宮崎県立芸術劇場

〒880-8557 宮崎市船塚3-210

Tel. 0985-28-3208 林田古都里

<http://www.miyazaki-ac.jp/>

トライアル・シアター2016

「改訂の巻『秘密の花園』」

気鋭の演出家や振付家、音楽家が宮崎に滞在し、一般参加の出演者らと、約1週間の期間で舞台作品をつくり上げる企画。独自の作風「妙-JICAL」で注目を集めるFUKAIPRODUCE羽衣の糸井幸之介を演出に迎え、1960年代から70年代にかけてアングラ演劇の中心的役割を担った唐十郎の傑作戯曲『改訂の巻『秘密の花園』』の上演に挑戦する。

[日程] 8月27日、28日

[会場] メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)



『秘密の花園』事前稽古に参加したメンバー

特集 アートプロジェクト

前号に続き、夏フェス以降も全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクトを紹介します。

※開催地の北から順に掲載。

☉は会場、🗺は問い合わせ先です。
(👉は地域創造助成事業)

●北海道白老町 9月10日～18日

飛生芸術祭 2016

旧飛生小学校を利用した共同アトリエの木造校舎や周囲の森を舞台とした2009年から続く芸術祭。オールナイトでアートや音楽、ダンス、人形劇などが織りなす「TOBIU CAMP」をはじめ、「僕らは同じ夢をみる」をテーマに多方面で活躍する人々が集結。この地の歴史や自然と長期的な視野で向き合うことで、年々充実度を増している。

🗺🗺飛生アートコミュニティ
contact@tobiu.com

●岩手県盛岡市

8月22日～12月25日

いわてアートプロジェクト2016

1,800人の岩手の心とアーティストたちが紡いだ「記憶」の展覧会。被災地に通い続けたアーティストたちの作品群の中に残された震災の記憶や時間を、「岩手の財産」に繋いでいく。夏のメディアアート展は9月11日まで、秋のファインアート展は9月30日より開催。長友心平や川口まどか、アナ・ダブツォ（スイス/建築・デザイン）、ホセマリア・シシリア（スペイン/現代アート）、マグダレナ・ソレ（アメリカ、スイス/写真家）が参加し、学生らとのコラボも行われる。

🗺🗺もりおか町家物語館ほか市内各所
🗺いわてアートプロジェクト2016
実行委員会事務局
Tel. 019-613-7781

●山形県山形市 9月3日～25日

みちのおくの芸術祭

山形ビエンナーレ2016

「これからの東北を担う文化的リーダーの育成」を目指し、2014年9月

に、東北芸術工科大学と山形市中心市街地を結んで第1回を開催。2回目となる今回は、荒井良二芸術監督の下、「山は語る」をキーワードに、国の重要文化財・文翔館など市内各所で、アーティストと市民による共同制作プログラムに挑むほか、文学や食などの多彩な体験型アートプログラムを展開。

🗺文翔館ほか市内各所
🗺山形ビエンナーレ事務局
Tel. 023-627-2091

●福島県二本松市ほか

10月8日～11月6日

福島ビエンナーレ2016

福島大学の学生、院生が中心となり、2004年から隔年で開催されている芸術祭。地域の住民と協働で、最先端のアートを紹介してきた。今回は二本松市を中心に「重陽」をテーマに開催される。菊人形祭ではヤノベケンジと増田セバスチャン、智恵子の生家では小松美羽、安達が原ふるさと村では手塚治虫、平山素子、大野慶人の「黒塚」の映画などが紹介される。

🗺二本松市内各所ほか 🗺福島現代美術ビエンナーレ実行委員会
fuku2016bien@gmail.com

●栃木県茂木町 9月17日～25日

もてぎ里山アートフェスタ

公園内を散策しながら工芸や絵画、彫刻などを鑑賞できるインスタレーション形式を基本とした展覧会。ワークショップも開催され、訪れる人が自然の中で作家と語り合い、ふれ合うことができる。森や林という作品展示に不向きな場所を整備するところから始まり、野外展示によって表現やあり方の可能性を広げる試みでもある。

🗺城山公園 🗺もてぎ里山アートフェスタ実行委員会事務局
Tel. 028-572-4950

●名古屋市ほか

8月11日～10月23日

あいちトリエンナーレ2016

一虹のギャラヴァンサライ 創造する人間の旅

今年3回目を迎える国際芸術祭。芸術監督に港千尋、キュレーターにはダニエラ・カストロ（ブラジル）とゼイネップ・オズ（トルコ）を迎え、国内外から119組のアーティストが参加。今年は従来のアートの枠組みを越えたプロジェクトや、グループとして多様な活動をするアーティストも紹介。パフォーマンスアートでは、フラメンコの革命児と称されるイスラエル・ガルバン、能と現代音楽を融合させた舞台をつくる青木涼子らが参加。勅使川原三郎が東京バレエ団らの出演によるプロデュースオペラ「魔笛」を演出する。

🗺愛知芸術文化センターほか名古屋市内各所 🗺あいちトリエンナーレ実行委員会事務局
Tel. 052-971-6111

●滋賀県近江八幡市

9月17日～11月6日

BIWAKOビエンナーレ2016

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている地区で、長年放置され続けた建物を、地元住民や日本全国から集まる有志たちの手で清掃することから始まった国際芸術祭。国内外のアーティストが、各々の空間を作品化する。今年をテーマを「見果てぬ夢」とし、約60組以上のアーティストがまちや倶楽部、カネ吉別邸などに作品を展示する。

🗺滋賀県近江八幡旧市街
🗺BIWAKOビエンナーレ事務局
(NPOエナジーフィールド内)
Tel. 0748-36-3766

●神戸市 9月14日～11月23日

六甲ミーツ・アート

芸術散歩2016

明治時代、居留外国人によってレジャーの山として開発が始まった、自然豊かな六甲山を舞台に、ピクニック気分を周遊しながら楽しめる現代アートの展覧会。ロープウェイや展望台のほか、六甲オルゴールミュージアム、六甲高山植物園を会場として、山本桂輔やさわひらき、八木良太ら39組のアーティストが展示やワークショップを行う。

🗺六甲ガーデンテラス、六甲オルゴールミュージアム、六甲有馬ロープウェイ（六甲山頂駅）ほか 🗺六甲ミーツ・アート 芸術散歩2016インフォメーション
Tel. 078-891-0048

●兵庫県篠山市 9月17日～25日 丹波篠山・まちなみアートフェスティバル 2016

造形・彫刻・絵画・陶芸などのあらゆるジャンルのアーティストが伝建地区内の30軒以上の町家を舞台に作品を展示する芸術祭。2008年に始まり、隔年、招待作家をはじめ地元ゆかりのアーティストや学生らが国の重要伝統的建造物群保存地区の空間を活用し、作品展示やワークショップを開催している。

🗺篠山市「河原町妻入商家群」
🗺丹波篠山・まちなみアートフェスティバル実行委員会
Tel. 079-552-2524

●奈良県奈良市

9月3日～10月23日

古都祝奈良（ことほぐなら）

—時空を超えたアートの祭典—

「東アジア文化都市2016奈良市」のコア期間として開催。市内八社寺での世界の第一線で活躍する作家によるアートインスタレーションや、アートを鑑賞しながら「ならまち」を散策できるアートプロジェクトのほか、平城宮跡での野外舞台公演、食文化を体験するプログラムなどを通して、1300年の歴史や文化が息づく奈良の骨格を現代に浮かび上がらせる。🗺奈良市内の八社寺、平城京跡ほか
🗺「東アジア文化都市2016奈良市」実行委員会事務局
Tel. 0742-27-0120



祭國強「船をつくる」プロジェクト」東大寺。中国から船大工10人が来日し、東アジアの海を航海した中国伝統の木造船を公開制作したものを展示中。

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

●岩手県釜石市

釜石市情報交流センター

〒026-0024 釜石市大町1-1-10

Tel. 0193-27-8751

<http://en-trance.jp/jkc>

◎2015年12月23日オープン



釜石市内中心部における市民活動やビジネス活動の拠点および情報発信拠点としてオープン。建物は鉄骨造り2階建て、A1ポスターも印刷可能なプリンターや映像・音楽編集機能を備えた市民スタジオ、ビジネスにも学習にも使えるワークスペース(12席)のほか、無料で使えるラウンジがあり、館内はどこでも公衆無線LANが利用できる。ライブや映画上映会などに利用可能な多目的集会室は「チームスマイル釜石PIT」と命名され、さまざまなイベントを通じた復興支援活動が年間40回程度行われる。

施設内には国内初の「ミッフィーカフェかまいし」も同日オープン。オランダ人絵本作家ディック・ブルーナの『ミッフィー』をモチーフにした同レストランは、オランダ王国と釜石市の友好の証となるとともに、釜石に元気と希望をもたらす灯台となり、人々の交流をつくる場になりたいという願いが込められている。

[施設概要]ラウンジ(約200m²)、会議室(16席・12席)、市民スタジオ(約31m²)、ワークスペース、「チームスマイル釜石PIT」(約150席)

[設置者]釜石市

[管理・運営者]釜石まちづくり株式会社

[設計者]aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所

●東京都立川市

たちかわ創造舎

〒190-0013 立川市富士見町

6-46-1 旧多摩川小学校

Tel. 042-595-6347

<http://tachikawa-sozosh.jp/>

◎2015年9月27日オープン



2004年に廃校となった多摩川小学校の校舎や体育館などの貴重な資源を生かし、プロフェッショナルが集まる文化創造のための活動拠点としてオープン。「インキュベーション・センター事業」「フィルムコミッション事業」「サイクル・ステーション事業」の3つの事業を柱とし、多摩エリアを中心に文化を担う人々や地域と共に歩みながら、多岐にわたるプログラムを展開。2016年5月には立川駅前の商業施設「エキュート立川」と協力して、同施設の屋上庭園で「屋上シアター」を開催。また演劇的手法を生かしたコミュニケーションの学校「たちかわ・コミュニケーション・スクール」を開校し、英会話を演劇で学ぶ参加型シアターの「ぶれいご」を行うなど、文化を担う人々や地域の人々と交流しながら、今後もさまざまな事業を展開していく。

[オープニング事業]一般公開DAY、Theatre Ort『想稿・銀河鉄道の夜』

[施設概要]1F: サイクル・ステーション・フロア(カフェ、ギャラリーなど)、2F: フィルムコミッション・フロア(撮影専用スペース)、3・4F: シェア・オフィス・メンバー・フロアほか

[設置者]立川市

[管理・運営者]NPO法人アートネットワーク・ジャパン

●長野県長野市

長野市芸術館

〒380-8512 長野市大字鶴賀

緑町1613

Tel. 026-219-3100

<https://www.nagano-arts.or.jp/>

◎2016年5月8日オープン



長野市民会館の閉館後、新たな文化の交流・創造の拠点として長野市役所の新第一庁舎と合築された複合施設。両施設を訪れる人々が利用できるパブリックスペースを豊富に設けることを意図したデザインで、中庭によって2つの施設が空間的、視覚的にも統合されており、市役所を訪れる人々がより身近に公演情報に触れることができるなどの効果も生まれている。館内には音楽練習室・演劇練習室・バンド練習室がそれぞれ複数設けられ、創造支援エリアの充実が図られている。

開館を機に結成された「ナガノ・チェンバー・オーケストラ」は、ベートーヴェンの交響曲全曲演奏会を2年間で完結させることを主軸に、同館の芸術監督でもある久石譲のフィルターを通じた独自性を追求し、音楽をつくり上げる喜びを市民と共有していくことを目指している。

[オープニング事業]「久石譲指揮 読売日本交響楽団」ほか

[施設概要]メインホール(1,292席)、リサイタルホール(293席)、アクトスペース(219席)、展示サロン(160m²)、音楽練習室ほか

[設置者]長野市

[管理・運営者]一般財団法人長野市文化芸術振興財団

[設計者]横総合計画事務所

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

熊本県

熊本県立劇場

こころの復興推進事業 「アートキャラバン くまもと」



南阿蘇中を訪問した佐渡裕率いるスーパーキッズ・オーケストラと被災地の人々

◎熊本地震

4月14日21時26分、熊本地方を震央とする震度7(マグニチュード6.5)の地震が発生。当初、これが本震と思われたが、4月16日1時25分、再び震度7(マグニチュード7.3)の地震が発生し、こちらが本震と判明。以来、一連の地震回数(震度1以上)は5月末までで1,613回を数えた。落ち着く間もなく6月20日から21日にかけて1時間150ミリという記録的豪雨にも見舞われ、被害が拡大。地震による死者は関連死を含め82人、負傷者1,684名(7月19日現在)、最大時の避難者数18万3,882人。

◎スーパーキッズ・オーケストラ(SKO)
兵庫県立芸術文化センターのソフト先行事業として2003年にスタート。オーディションにより全国からトップクラスの演奏技術を持つ小3～高3のジュニア演奏家を選抜。合同練習、夏合宿、演奏会などを通じて音楽体験を積む弦楽オーケストラ。芸術監督は佐渡裕。今回は、7月26日から30日まで熊本でSKOの夏合宿を行い、練習の合間に、アートキャラバンとして南阿蘇中学校・熊本県庁ロビー・熊本市現代美術館などでのコンサートを実施。また、佐渡芸術監督による熊本高校弦楽オーケストラ部の指導なども行われた。

◎さるくっく(SARCK)

さしよりアトリバイバルコネクション熊本の略。“さしより”は熊本弁で「とりあえず」の意味。“何かしたい”という思いで、東日本大震災でアートによる復興活動を行っているARCTの鈴木拓さんと相談。熊本演劇人協議会で話し合い、ネットワーク軽く動けるよう有志7人が集まって立ち上げた。

熊本地震による被害で閉館していた熊本県立劇場(以下、県劇)が8月25日に再開する。県劇では閉館中、被災地の学校や避難所などで活動を行う「アートキャラバンくまもと」を展開。今回はキャラバンの模様と公立文化施設の現状取材した。



7月27日、28日、県劇の本田恵介事務局長を訪ねた。戦後の建築家を代表する前川國夫設計の建物は、外壁、高架水槽、演劇ホールのホリゾンなどが破損したが、躯体や吊り天井に損害はなく、6月末には再開の見通しだった。しかし、外壁張り替えが必要となり、再開がずれ込んだ。

閉館中、県劇では県内公立文化施設の被災状況を調査し、積極的に情報発信(<http://fukkou.kengeki.or.jp>)。また、主催公演の中止は1件のみで会場変更や延期で対応。5月9日からは館外の慰問コンサートなどをコーディネートする「アートキャラバンくまもと」をスタートした。

「日頃からクラシック音楽の登録アーティストや地元演劇人による学校へのアウトリーチ事業を年間70～80件ほど実施している。今年度はそれを合わせてアートキャラバンが120件ぐらいになる予定だ。2013年から東日本大震災の被災地との支援交流事業を実施し、登録アーティストやスタッフが東松島の仮設住宅などを慰問してきた。こうした経験が生きれば」と本田事務局長。

アートキャラバンのきっかけは、宮崎国際音楽祭で九州入りしていた徳永二男音楽監督(ヴァイオリニスト)からのオファーだった。宮崎県立芸術劇場が、5月2日、スタッフの研修交流などで旧知の県劇に連絡。前日まで避難所になっていた県劇向かいの大江小学校体育館で、5月9日の慰問演奏を実現した。音楽のまちづくりを検討していた大江地区在住の演奏家がチラシを配布。また、県劇のフェイスブックで情報を発信したところユニークユーザー数が3万1千人を超え、当日は約400人も市民が集まった。

取材した27日には、阪神淡路大震災の復興シンボルである兵庫県立芸術文化センターのスーパーキッズ・オーケストラ(SKO)34人によるアートキャラバンが南阿蘇中学校体育館で行われていた。会場には老若男女約350人が集まり、1時間

以上にわたって親しみのある曲からレスピーギ作曲『パッサカリア』までを堪能。指揮者の佐渡裕さんとの写真撮影などを楽しんでいた。「阪神淡路大震災で地元の支援活動ができなかった心残りが佐渡さんにもあり、2011年から東日本大震災の被災地をツアーしている。子どもたちはツアー後に必ず作文を書いているが、逆に現地で自分たちが元気づけられたと感じていて、たくましくなっていく」(横守稔久楽団部プロデューサー)。

また、アートキャラバンでは地元演劇人による活動もスタート。支援団体さるくっく(SARCK)を立ち上げた劇団ゼロソーの松岡優子さんは、自らも実家が被災し、仮設住宅暮らし。「今は、子どもたち、避難所のおじいちゃんやおばあちゃんの話の聞いたり、遊んだりしている感じ。これから長い活動になることを覚悟している」と言い、フェイスブックで熊本の状況を発信し続けている。

被災した施設も取材したが、熊本城側にある直営の熊本市民会館は地震直前にネーミングライトを変更し、「シアーズホーム夢ホール」になったばかりだった。大規模改修で補強した吊り天井の一部が崩落。開館50周年に間に合うよう17年12月までの再開を目指し、それまでは主催公演を県劇などに振り替える。「被災直後から支援金の申し出が多くあり、現在3,600万円。改めて市民に愛されているホールだと実感した」(坂本三智雄館長)。

また、地域創造おんかつ事業の参加館だった益城町文化会館は、昨年度、直営から民間指定管理者に移行。周囲には全壊した家屋があり、ロビーも仮養生中だが、ホールは無傷。「秋は保育園・幼稚園の発表会シーズンで問い合わせが多いが、再開の許可が出ない。小さな町なので指定管理者との距離は近く、こちらから申し出て総務課に代わって慰問演奏などの受付窓口とマッチングを引き受けてきた」(山口亮二館長)。

被災地を回りながら実感したのは、個人のツイッターで市民を励ましている大西一史市長が「熊本市を音楽やエンタメが溢れる街にしたい」と日頃から発言しているように、自粛ムードがなかったことと、各所が自然に連携できるネットワークが長年にわたって培われてきたことだ。非常時にこれほど心強いものはない。(編集部・坪池/宇野)